

# オンライン環境において良好な印象を与えられる自己撮影条件の調査

## A Study on Conditions of Online Self-photography for Good Impression

伊藤 翔太

Shota ITO

牛田 啓太

Keita USHIDA

工学院大学

Kogakuin University

### 1. はじめに

新しい生活様式の浸透で、オンラインの会議・面接が一般化した。採用活動で、アピール動画を録画させて提出させる企業もある。だが、こうしたオンラインのコミュニケーションは、対面より話すことに違和感を持ちやすいという調査結果がある[1]。ビデオ通話ソフトでは、参加者の顔を加工できるものもあるが、これは話すときの違和感を拭うものではなく、また、自身の姿を見せて通話・収録しなければならない場合もある。本稿では、自身の映像を伴うオンラインのコミュニケーションで、話しやすい条件、および、聞き手に良好な印象を与えられる条件を調査した。

同様の問題意識で実施された研究として、オンライン面接において面接官の顔をアバタ化して緊張緩和を図るものがある[2]。本稿では、特に話し手が撮影するときの条件について、話しやすさと聞き手の印象を調査した。

### 2. 実験1：撮影条件と話しやすさの調査

8名の被験者（18-23歳の男性）について、4種類の撮影条件のもとで20秒程度の自己紹介動画を収録した。被験者には、モニターを見ながら同様の内容の自己紹介をしてもらった。撮影条件ごとモニターに映っているものが異なり、①話し手の映像（鏡像）、②聞き手の映像、③黒画面、④著名人のディープフェイク映像（鏡像）、である。被験者ごとに撮影条件の順序は変えている。④は、プレゼンテーション能力が高いと言われているスティーブ・ジョブズの顔が話し手に合わせて動くもので、（VRにおいて）有能そうな容姿が利用者により能力を発揮させるというプロテウス効果[3]を期待している。

各被験者について、4回の収録をうまく話せている（自信がある）順に順位付けしてもらった。また、自身の性格やプレゼンテーション能力を自己評価してもらった。

実験結果から、話しやすさについて、プレゼンテーション能力の自己評価と関係が見られた。自己評価が低い被験者は①話し手の映像、高い被験者は②聞き手の映像を見ながらがもっとも話しやすいと答える傾向があった。また、③黒画面は、自己評価が低いほど話しやすく、高いと話しにくく感じていた。

### 3. 実験2：撮影条件と聞き手に与える印象の調査

2節で撮影した動画を、2節と同じ8名の被験者に見てもらった。それぞれの被験者（自身含む）の動画4種類を（撮影条件は明示せず）印象のよい順に順位付けしてもらった。各自己紹介動画に対して、各条件の動画の平均順位を示した

表1：各被験者の動画の条件ごとの評価の平均順位

	条件①	条件②	条件③	条件④
被写体 A	2.00	2.50	2.63	2.88
被写体 B	2.13	2.50	1.88	3.50
被写体 C	1.75	2.50	2.50	3.25
被写体 D	2.13	2.88	2.38	2.63
被写体 E	2.50	1.50	2.38	3.63
被写体 F	2.13	2.75	1.88	3.25
被写体 G	2.88	2.63	2.50	2.00
被写体 H	2.25	2.13	2.88	2.75

ものが表1である。

被験者は、他人の自己紹介動画について、①話し手または②聞き手の映像を見ながら撮影したものを高く評価する傾向が見られた。これは、ケンドールの一致性係数について、5%水準で有意であった。自身の映像の評価にも同じ傾向が見られた（同じく5%水準で有意）。

④のディープフェイクの印象は総じてよくなかった。本実験の範囲ではプロテウス効果は見られなかったといえる。

### 4. 自信を持って撮影でき、好印象を与える条件

2、3節の実験結果から、オンラインコミュニケーションでは、自身または話し手の映像を見ながら話す、総じて話しやすく好印象を与えやすいといえる。これは、オンライン会議・面接で相手の映像が見えているときはある程度達成されている条件である。そうでないとき（音声のみの通話や事前録画）では、自身の映像を映したり、聞き手と見立てた写真を見たりして話すといふことが示唆される。

### 5. まとめと今後の課題

本稿では、オンライン環境での自己撮影の条件について、話しやすさと聞き手の印象を調査した。今後の課題として、実験と分析を重ね、個人に合った、やりやすく、良好に見せられる自己撮影方法を提案できればと考えている。

#### 参考文献

- [1] 狩野、布井：“直接対面とビデオ通話における日常的コミュニケーションの評価の違い：LINEのビデオ通話機能を用いた検討”、聖泉論叢、No. 28、pp. 105-116、2021
- [2] 野口ほか：“採用面接におけるデジタルカメラを用いた面接官の印象調査”、エンタテインメントコンピューティングシンポジウム論文集、pp. 15-19、2021
- [3] D Banakou et al.: “Virtually Being Einstein Results in an Improvement in Cognitive task Performance and a Decrease in Age Bias”, Frontiers in Psychology, Vol. 9, Article 917, 2018